# 教育委員会２月定例会　会議録

１　開催日時　　令和８年　１月　27日（火）　午後３時から午後３時30分まで

２　場　　所　　教育委員会室

３　出席委員

| | | |
|---|---|---|
| 教　育　長 | 丸　山 | 陽　一 |
| 同職務代理者 | 北　澤 | 嘉　孝 |
| 委　　員 | 山　口 | 美　和 |
| 委　　員 | 田　中 | 亜希子 |

４　説明のために会議に出席した者

| | | |
|---|---|---|
| 教育次長 | 前　島 | 卓 |
| 教育次長 | 唐　木 | 英　俊 |
| 教育次長副任兼<br>総務課長 | 北　原 | 孝 |
| 学校教育課長 | 佐久間 | 清　也 |
| 保健給食課長 | 山　口 | 恭　司 |
| 家庭・地域学びの課長 | 藤　原 | 慶　治 |
| 学校支援官 | 酒　井 | 好　和 |
| 主幹兼<br>総務課長補佐 | 穂　川 | さゆり |
| 学校教育課長補佐 | 花　石 | 秀　和 |
| 学校教育課指導主事 | 中　村 | 和　孝 |
| 学校教育課指導主事 | 丸　山 | 拓　磨 |

５　書　　記

| | | |
|---|---|---|
| 総務課<br>庶務担当係長 | 児　島 | 真　季 |

丸山教育長が開会を宣した。

＜教育長あいさつ＞

学校では、小学校、中学校ともに児童会、生徒会の引継ぎや卒業生を送る会の準備に入っているところである。中学３年生は受験シーズン中ということで、体調に気を付けて頑張ってもらいたい。

この冬、北陸、東北、北海道では大雪で大変なことになっている。長野市はそれほど降っていないが、戸隠スキー場はそれなりに雪の量があり、３学期に入ってから小学校のスキー教室が全校で行われている。学校からスキー場へは１時間程度で行けるので、これも長野の地の利を生かした活動だと思われる。子どもたちにとって、教室の中では体験できない大切な機会だと思うので、まずは安全に、自然との関わりの中でスキーに親しみ、大いに楽しんでもらいたい。

本日、第51回衆議院議員選挙が公示となり、２月８日の投開票日に向けて12日間の選挙戦に入ったが、この衆議院の解散に伴い、予算審議が大幅に遅れるということである。教育関係では、４月から小学校の給食費無償化が始まるということで、その予算について心配していたが、暫定予算の中に組み込まれるということである。通常、暫定予算とは、事務的経費や人件費などの必要経費のみだが、それだけ重要なものと認識しているのだと思われ、安心したところである。ただし、無償化の制度の詳細については分からない所が色々とあるので、引き続き情報収集に努めていきたい。

昨年度、長野市子ども議会での、「地域の人たちにも給食を食べてほしい」という提案をきっかけに、鍋屋田小学校の６年生が栄養等を学びながら、地域の食材を利用した特別メニューを考案した。市役所８階のししとうにて、昨日から１日限定20食、800円で提供されることとなったので、ぜひ皆様にも食べていただきたい。いずれにしても、子どもたちの提案や願いが形になったということで、鍋屋田小学校の６年生にとって、卒業前の大変良い思い出になったのではないかと思う。今年も３月に子ども議会が開催されるが、できるだけ子どもの提案等を実現していきたいと思っているところである。

学校では３学期になり、またインフルエンザが流行し始めている。各学校、施設において、感染症の予防と対策に最善を尽くしていきたい。

＜一般行政報告＞

報告１号「訪問型アウトリーチ支援事業「つながるサポート」について」

丸山教育長が事務局に説明を求めた。

佐久間学校教育課長が説明した。

・事例①のケースでは、現在、定期考査を受けることができるようになり、週５日の登校にも挑戦している状況である。
・今後も、保護者と子どもを真ん中において、様々な状況やニーズに応えられるよう、色々な機関と連携しながら、すべての子どもたちが安心を実感できる環境の中で、自分らしく過ごしてもらえるよう取り組んでまいりたい。

委　員　子どもだけではなく、保護者の方もとても不安を抱えている中で、このアウトリーチ支援事業というのは、人とつながることができたり、安心できることだと思うので、ここまでつくるのは大変だったと思うが、継続して続けていただきたい。シート４の支援終結、休止の19件の中に、「安定しているため終結」ではなく、止めてしまったケースは何件かあるのか、分かる範囲でその理由と対策があれば教えてほしい。

中村学校教育課指導主事

19件のうちの約半分くらいかと思う。一例をお示しすると、ネットが好きな子で、ずっとネットでつながっていたが、少しネットに触るのを休みたい、いわゆるデジタルデトックスをしたいので、支援を休止したいという申し出でがあった。対策としては、このケースについては、あまりこちらから刺激を与えず、お母さんから状況をよく聴きながらタイミングを見て、待つということが大事だと考えている。

委　員　デジタルデトックスをしたいというのは本人の気持ちなのか。

中村学校教育課指導主事

本人の気持ちである。色々つながったり見たりすることが多く、スタッフともオンラインでつながっていた子で、デジタルデトックスという言葉は使っていないが、「もういいや」「少し休みたい」という、お母さんから申し出があった。

委　員　すごくきめ細かく対応されていて、心強いだろうなと思ってお聴きしていた。現在、アウトリーチスタッフが７人、しなのきサポーターが７人、出張フレンドが20人ぐらいということで、これからさらに支援する人が増えていくと、今も登校時間を調整するなど、相当にきめ細かく一人一人に対応していて、体制として維持できるか心配である。今の84件でも相当大変なのではないかと思う。

佐久間学校教育課長

確かに全部回り切れていない状況もある中、今の体制でできるかというと疑問もあるが、なるべくこのアウトリーチの対象にならないよう、来年度は、校内教育支援センターの部分を手厚くすることに、特に力を入れていきたいと思っている。さまざまな学校、校外教育支援センターも含めて、全方面的にやっていきたい。

委　員　つまり、色々な機関につなげていくということの間の部分を重点的にやっていくということですかね。子どもや保護者の方との信頼関係を最初に結ぶのが、アウトリーチチームだと思うので、そこからうまくつないでいけたら良いし、そこも難しいところかなとも思う。

委　員　最初のグラフについて、児童生徒数が合算で出ているが、学年で見たときに、どの学年も同じ傾向なのか。

唐木教育次長

細かいものについては後ほどお渡しするが、最近は特に低学年の不登校の数が増えてきている傾向がある。どの学年も一様というよりは低年齢化しており、大きな課題であると捉えている。

委　員　ここをうまく乗り越えればつながるとか、何かデータ的に見えるなら、そこを重点的に学校でも意識して、まだ学校でもやれることがあるんじゃないかなと思うのでお願いしたい。１点、アウトリーチの件数の数え方は、１人ということなのか、のべということなのか。

中村学校教育課指導主事

１人、実数である。

委　員　84件中51件がある程度先が見えてきているということで、かなり頑張っているんじゃないかと思う。一方で、半分諦めているような子どもたちが、学校に行けるかもしれないとなった時に、そこで失敗してしまうと本当に取り返しがつかなくなる気がするので、その気になったところで後戻りしないようにやっていければと思う。

丸山教育長

やっていて、何か失敗してしまったり、課題だったと思ったりしたケースはある

か。

中村学校教育課指導主事

やはり、スタートは保護者の方と学校の思いが先行しているということがあるので、そこを聴きすぎてしまうと危ないということで、本人がどうしたいかというところを一番気を付けてやっている。

委　員　図の中で、申し込みの矢印は学校からとなっているが、保護者の方からというルートはあるのか。

佐久間学校教育課長

まず、学校の状況を聴きたいので、校外の教育支援センターも同様に行っている。時々、直接保護者の方から「お願いしたい」「校外教育支援センターに入りたい」という話もあるが、そこは学校を通してにしていただいている。

委　員　以前、SaSaLANDを見学させていただいたが、そこでは自由に自分の好きなことができ、それをサポートしてくれるスタッフや信大の学生さんたちがいる。比較的やりたいことを何でもやっていいよ、そのままのあなたらしくいられる居場所、という形で運営されている。教育支援センターというのは、それとは少し違うかと思うが、その辺りは今後どう考えていかれるのか。

佐久間学校教育課長

SaSaLANDが２年を終えるところで、様々な取組を行い、良いことも悪いこともある程度積み重ねてきた。担当指導主事とは、それを学校内や校内教育支援センター、他の教育支援センターでも、目で見える部分はさることながら、職員の気持ちの問題や接し方など、見えない部分も大事だから、何でもやっていこう、広げていこうという話をしている。どうしても物理的な制約はあるが、そうでないところは、成果が出てきたことを校外の教育支援センターでもやっていきたいと思っている。

委　員　普通の学校とSaSaLANDは印象としてもだいぶ違うので、その中間的な存在は必要だと思っている。なかなか家から出られない子がSaSaLANDに一歩踏み出して、さらにもう一歩というところが学校だと少しハードルが高いと思う部分もある。その中間的なものが増えていくと、もう少し子どもたちも安心を得ながら活動範囲を広げたり、色々な人とコミュニケーションを取れたり、ステップアップできるのかなと思う。

佐久間学校教育課長

今おっしゃられた中間というのが、ひと昔前まで私たちも使っていた「中間教室」そのもので、学校と自宅の間にあって、なるべく学校寄りにいられるようにという思いもあって、多くの校外教育支援センターは学校の近くにある。それぞれの子どもの状況やニーズもまちまちなので、学校、自分の教室、自分の教室以外の部屋、校内教育支援センター、中間教室、SaSaLAND、フリースクールなど、それぞれに応じて選択できるようにと思っている。

委　員　アウトリーチチームについて教えていただきたい。出張フレンドは信大の大学生ということだが、他のアウトリーチスタッフやしなのきサポーターはどういう方たちなのか。何か資格等あるのか。

佐久間学校教育課長

基本的には、条件を課していない。もちろん資格を持っていない方や未経験の方もいらっしゃる中で、今年度の冒頭２か月間くらいは色々な専門家の方にご協力いただいて、教育学部で行うような講義をしていただき、ある程度スキルを合わせながらやっている状況である。

委　員　退職した職員等ではないということか。

唐木教育次長

アウトリーチスタッフは、ハローワークで募集し面接した上で、ある程度適性をみさせていただき、研修を受けてスタッフとなる。しなのきサポーター自体は市で行っているものだが、県の方でも不登校加配の方で、同じような役割を担っている方もおり、その中には教員や元教員という方もいる。いずれにしても同じスタンスでやりたいので、研修に色々な方を引き込んで同じ考え方でやってもらえるよう、来年度は研修範囲を広げていきたいと思っている。

丸山教育長

スタッフは皆女性であったか。男性は居なかったか。

佐久間学校教育課長

皆女性である。

唐木教育次長

男性が欲しいところもある。

中村学校教育課指導主事

学生の中に男性がいるので、対応しているところである。性別については慎重にやっていきたい。

＜その他＞

○教育委員会の主催、共催及び後援事業について（北原教育次長副任兼総務課長）

主催事業０件、共催事業１件、後援事業25件（賞状交付１件）

次回以降の日程確認（北原教育次長副任兼総務課長）

３月定例会　２月24日（火）午後３時　　教育委員会室

４月定例会　４月３日（金）午後３時　　教育委員会室

丸山教育長が閉会を宣した。

令和　　年　　月　　日

会議録署名委員

教育長

同職務代理者

~~教育委員~~

教育委員

教育委員